図書館だより
No.84 ぽれぽれ

内 容

◇巻　頭　言　　歯科衛生学科　　桒原先生
◇リレーエッセイ　　看護学科 太和田先生
◇おすすめの本の紹介 作業療法学専攻 須藤先生
◇図書館サービス紹介

千葉県立保健医療大学図書館　　2023.4.1

巻頭言　　2023 年 干支「癸卯（みずのとう）」
～『時間』を大切に！～

歯科衛生学科　桒原　涼子　先生

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

本日から大学生であるとともに将来の医療従事者の卵として歩み出しました。大学生活への期待と将来の夢と希望に満ち溢れた皆さんの輝かしい姿を想像します。

2023 年、今年の干支は「癸卯（みずのとう）」です。「癸（みずのと）」と「卯（う）」の漢字の組み合わせです。皆さんは「癸卯（みずのとう）」と聞いて、どんなことを思いますか？

干支の一文字目は干、二文字目は支であり、一文字目の干では十干（じっかん）といって甲・乙・丙・丁・戊・己・庚・辛・壬・癸の 10 種類があり、二文字目の支は十二支（じゅうにし）といって子・丑・寅・卯・辰・巳・午・未・申・酉・戌・亥の 12 種類があります。これらの組み合わせが「癸卯（みずのとう）」の語源由来です。

「癸卯」は干支の組み合わせが良く、相性が良い！と耳にすることがあります。様々な謂れがあると思いますが、「癸」は水、「卯」は木にたとえられることもあります。つまり、天の水が地面の木にふりそそぐことで木を育てることができると解釈できます。そのため、2023 年 「癸卯（みずのとう）」では天からの恵みにより、成長をすることができる『時間』になるのではないかと思います。

上記の内容にさらに興味をもたれた皆さん、是非、図書館に出向いて時を忘れてでも書籍を読み知識を得る『時間』を持つことをおすすめします。読書を通じ向き合い得た知識は、想像力の翼を大いに広げる源であり、大学生時代の有意義な『時間』の宝物の1つです。

「光陰矢の如し」という言葉のとおり、『時間』は瞬く間に過ぎてしまいます。
そのため、『時間』は貴重です。大学生時代の『時間』を如何に一瞬一瞬において充実して有意義に過ごせたかにより、将来の人生に大きく影響するでしょう。

さて、本学では書籍との出会い以外にも、多職種人材との出会いの機会にも恵まれています。勿論、出会いには運も加味されますが、自らの行動の結果による偶然の出会いの機会もあるかもしれません。大学生時代の貴重な『時間』のなかで、自らにはない考えや姿勢を知り、自らを成長させてくれる1つでもある出会いの『時間』の宝物にも恵まれ、将来の夢実現に向けて着実に歩んでいって欲しいと思います。

特に 2023 年 「癸卯（みずのとう）」では、成長をすることができる天命であると解釈できるため、様々な有意義な『時間』を大切に過ごされることを願っております。

リレーエッセイ

読書のすすめ

看護学科　　太和田　暁之　　先生

大学生のころ意識して東西の古典を読みました。敬愛する祖父が旧制高校(八高)・東京帝国大学出身でしたのでいわゆる「教養主義」にあこがれがあったことや、この時期にありがちないろいろな悩みも理由としてあったと思います。論語、旧・新約聖書、プルタルコス、ギリシャ悲劇(アイスキュロス、ソポクレス、エウリピデス)、マルクス・アウレリウス(自省録)、トルストイ、ホメロス(イリアス、オデュッセイア)、老荘、シェークスピアなど。読書の師や友人がいたわけではないのでこれらの書物の真髄をどれほどくみとれたものか怪しいものですが、読書のおかげでこれまでずいぶん助けられたという実感もあるので、ここで読書、特に古典の読書をお勧めする次第です。

読書に必ずしも実利を求めるものではないと思いますが、例えば「論語」には社会や組織における、機微に触れる処世術も記されていますし(老子はそれを嫌ったわけですが)、ギリシャ悲劇には現世を生きるわれわれ人間にどれほどの悲劇が起こりうるか、ということが描かれており(そしてそれらすべてが必ずしも救われるわけではない)、私たちに日々降りかかる事柄のなんと小さなことかという視点を得ることができます。「新・旧約聖書」には宗教を別にしても深い洞察が含まれていますし、プルタルコスの「英雄伝」は、日本で言えば織田信長などの偉人伝にあたると思いますが、ナポレオンや医学教育で著名なウィリアム・オスラーなど多くの偉人が幼少期に愛読したといえば読まずにはいられないと思います。「英雄伝」はシェークスピアが取材していくつか作品を書いておりますので、興味があればこちらから入るのも手だと思います。アウレリウス帝の「自省録」は、医療に従事する方にはぜひ手にとって頂きたい一冊です。医療現場において我々にはどれほど高貴な忍耐が求められることでしょう。「自省録」はそのような我々を支え、叱咤してくれる言葉であふれています。

おすすめの本の紹介

リハビリテーション学科　作業療法学専攻　　須藤　崇行　　先生

①『ケーキの切れない非行少年たち』

宮口幸治 著　新潮社　2019 年

著者は精神科医であり、非行少年と少年院で触れ合う中で、認知機能が低く簡単な足し算や引き算が出来ない、漢字が読めない、簡単な図形を写せない、短い文章を復唱出来ないといった少年が大勢いることに気付きます。このように見る力、聞く力、想像する力が弱い影響から、

話しを聞き間違えたり、対人関係で失敗したり、いじめに遭ったりし、そのことが非行の原因になっていることが少なくない現状を目の当たりにします。学校では見過ごされ、少年院や医療少年院で初めて認知機能が低いことに気づかれる現状を、筆者の体験を通して窺い知れる一冊となっています。また本書の後半では、子どもたちの支援方法についても書かれているため、認知機能のトレーニングに興味のある方は手に取ってみてはいかがでしょうか。

②『宇宙兄弟』

小山宙哉 著 講談社 2008 年～

この漫画はタイトルから分かる通り、兄弟で宇宙を目指す物語です。30 歳を越えてから宇宙飛行士を目指す兄のムッタと、一足先に宇宙飛行士という夢を実現させた弟のヒビト。この個性的で魅力的な 2 人を中心に、宇宙を目指す人々との交流が描かれた人気のある漫画です。『宇宙兄弟』は、ムッタやヒビト以外にも魅力的な人々が多く登場し、たくさんの名言・名セリフがあります。特に私が好きなのは、天文学者の金子シャロンの言葉です。何かを選ぶときに、どうしても「どっちが正しいか」で考えてしまいますが、シャロンは「どっちが楽しいか」で決めなさい。とアドバイスをします。私も何か決断をしなくてはいけない時にこの言葉を思い出し、自分の行動を決める際の参考にしています。このセリフを見て気になった方は、どのような状況で発せられた言葉か、ぜひ本書を読んで確認してみてください。

『宇宙兄弟』の名言・名セリフも素敵ですが、筋萎縮性側索硬化症（以下 ALS）に対して向き合っている点も、私が興味を惹かれたポイントです。ネタバレになるので詳しくは書けませんが、ヒロインであるせりかは、ALS をこの世からなくすために医者となり、無重力空間で ALS 治療薬の実験を行うために宇宙飛行士を目指します。また物語の中で ALS を扱う関係から、ALS の研究費を集めるために「せりか基金」というプロジェクトを実際に行っています。「せりか基金」は 2017 年に発足し、過去5年間で 17 人の研究者へ計 4,550 万円の助成をおこなっています。「せりか基金」を受賞した方の研究内容は、Journal of biologicalchemistry や Nature Communications に掲載れているため、興味がある方は検索してみてください。

宇宙に興味のある方はもちろんですが、名言・名セリフに触れたい方、ALS に興味のある方などは、『宇宙兄弟』をきっかけにするのも悪くない方法かと思いますので、是非この機会に触れてみてはいかがでしょうか。

図書館サービス紹介

図書館利用のコツ～PubMed でアイコンを表示するには

医中誌や PubMed を検索して全文を読もうとするとき、各種アイコンのリンク先で読めればベストですが、そうでないときも必ず全ての文献に「フルテキストを探す」の水色アイコンが付きます。これを開くと、無料で読める文献の場合はそのリンク先が表示されたり、図書館へ文献複写を依頼するための申込フォームへつながったりして便利です。ただ、PubMed を使っているとこの保医大アイコンが表示されないことがあります。そこで解決策をご紹介します。

（1） 検索中の PubMed 画面は閉じずに、本学図書館ホームページを開く
[https://lib.cpuhs.ac.jp/drupal/]

（2） PubMed へのリンクを開いて、そのまま置いておく

（3） 検索中の PubMed 画面に戻ってブラウザの「再読み込み」ボタンまたは F5 キーでページを更新すると、水色アイコンが表示される

（1）

（2）

（3）

千葉県立保健医療大学

■幕張キャンパス図書館
〒261-0014　千葉市美浜区若葉 2-10-1
TEL.043-272-2987
FAX.043-272-2988

■仁戸名キャンパス図書館
〒260-0801　千葉市中央区仁戸名町 645-1
TEL.043-264-3061
FAX.043-264-3062

図書館 HP